

トマホーク導入を表明

自公、安保3文書で

「反撃能力」（敵墓地攻撃能力）の保有③防衛力の抜本強化、総合的な防衛体制の強化④装

向は「中國との戦略的連携」と相まって安全保障上の強い懸念」だと盛り込みました。

には、12式地対艦誘導弾能力向上型の開発、
イージス・システム搭載艦などの兵器導入を

備移転の原則や運用指針等の見直しの検討⑤能動的サイバー防御の導入⑥海上保安能力の大幅な強化と体制の補充⑦経済安全保障の促進一の7項目を列挙しています。

〔国家防衛戦略〕では、敵基地攻撃と「防空」を一体化させた米軍のシステム「統合防空ミサイル防衛」の導入を表明し、その中で「反撃能力」(敵基地攻撃能力)を位置付けま

明記。サイバー防御として、攻撃を受けていない段階で相手サイバーの侵入などを行う「能動的サイバー防衛」を盛り込みました。沖縄県を含む南西地域を中心とした15旅団の

中国の情勢認識について、中国の軍事動向、「防衛力整備計画」した。

第三回

マホーク導入を検討する
と正式に表明しまし
た。

「安全保障戦略」は、自
指すものとして、①
「自由で開かれたイン
ド太平洋」を強化する
ための外交の展開②

したうえで、国際社会の平和と秩序に対する「最大の戦略的挑戦」だと明記。インド太平洋地域でのロシアの動